学　年	教科等	題材名	日　時
第６学年	外国語科	I want to be a vet. 将来の夢	令和５年 10 月 31 日（火）６校時

研究主題	自律的に学ぶ子どもの育成
研究内容１の手立て	**【自分の思いや考えを伝え合うことができる言語活動の在り方】** 本単元では、単元ゴール設定の際に、My dream スピーチで、自分の伝えたい相手にどのように思ってもらいたいかを問い、どのようなスピーチをめざすのかという My Goal（自分の目標）を決めるようにする。そうすることで、単元をとおして相手意識をもち、目標達成に向けて毎時間の言語活動に取り組むことができるようにする。 本時では、スピーチメモを基に、将来の夢とその理由等を仲間と伝え合う言語活動を設定する。その際、自分の伝えたいことと言語材料を結び付けることができるように、スモールトークで様々な表現を出し合って共有し、既習の語句や表現のカードを、学習支援アプリで活用できるようにすることで、子どもが自らスピーチに必要な語句や表現を選択・決定して、言語活動に臨むことができるようにする。
研究内容２の手立て	**【自分や仲間の表現を高め合うためのふりかえりの在り方】** 単元をとおして、言語活動の途中や終末に、仲間と互いの表現をふりかえり、自分の表現を再構築して伝える場を設定し、自分や仲間の表現を高め合うことができるようにする。 本時では、グループで互いの発表を見つめ直す際に、「相手に伝わる表現か」「表現の工夫はあるか」等の視点を与えることで、互いの表現を認め合ったり、助言し合ったりし、次のスピーチに生かすことができるようにする。

○　子どもの姿からの報告

○　スモールトークの場面

・　将来の夢に対する「理由や思い」について、伝える順番を工夫したスモールトークを教師が行い、スモールトークで聞き取れた表現や他に考えられそうな表現を全体で共有したことで、「理由や思い」の内容や表現の幅を広げ、自分や仲間のスピーチに生かす姿が見られた（板書赤枠部分）。

○　スピーチを伝え合い、ふりかえる場面（言語活動）

・　「相手に伝わる表現か」「内容や表現の工夫はあるか」といったふりかえりの視点を共有し、グループの仲間と互いのスピーチの表現をふりかえる時間を設定したことで、問いかけの表現を付け加えたり、伝える順番を工夫したりと互いの表現のよさを取り入れたり、助言し合ったりする姿が見られた（板書黄色部分）。

【スモールトークの場面】

教師になりたい理由だったら、あこがれの先生について言えるよね。

“My hero is～.”が使えそう！

【言語活動の場面】

①個人で表現づくり（スピーチメモ）

“like”と“want to”を使って４つの理由と思いは伝えられそう。一度録音してみよう。

②グループでスピーチ発表

I want to be a voice actor. I like anime. I want to make people happy.

③グループでふりかえり

お気に入りのアニメを紹介してみたらいいかもね。

もう少し理由を増やしたいのだけど・・・。

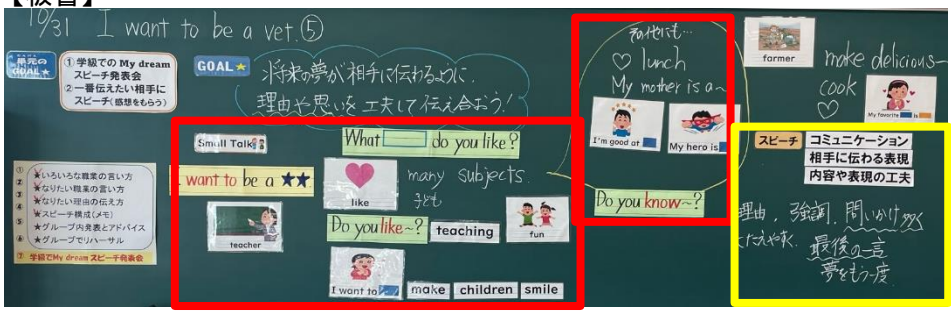
○○さんのように問いかけを入れたらどうかな。

僕も問いかけの“Do you know~?”を入れようかな。

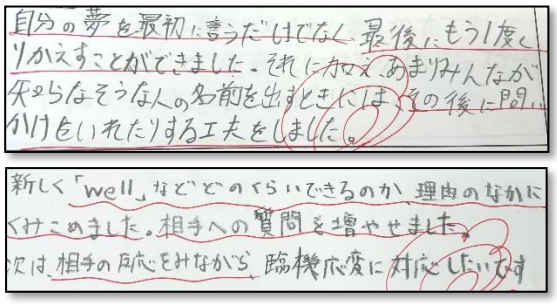
④ペアに再スピーチ

さっきよりもうまく伝えられた！

【板書】



【終末のふりかえりの記述】


自分の夢を最初に言うだけではなく、最後にもう1度、リかえすことができました。それに加え、あまりみんなが知らなそうな人の名前を出すときには、その後に問いかけをいれたりする工夫をしました。

新しく「well」などどのくらいできるのか、理由のなかにくわえこめました。相手への質問を増やせました。次は、相手の反応をみながら、臨機応変に対応したいです

○　考察

○　子どもが言いたいことを英語で伝えることができるように、掲示物や学習支援アプリで既習の語句や表現を準備していた。外国語科では、子どもが自ら必要な語句や表現を自分で選択・決定することが、自律的な学びへとつながる。子どもが「これならできる」と思えるステップを教師がさり気なく準備していくことが大切である。

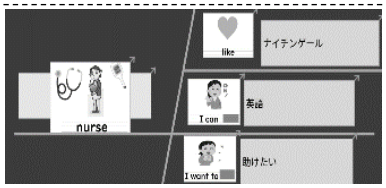
○　中間評価を成功させるポイントとして、子どもが自ら表現の改善点に気付くことができる問いかけをすることが挙げられる。もっと子ども自身が自分の表現を見つめ、改善する時間を確保できるとよい。また、子ども同士が対話する場面を確保し、仲間からのアドバイスによる気付きが得られるとよい。子どもの意欲を高めることのできるモデルを提示することも手立ての１つである。

御意見・御質問はこちら（研究部アドレス）
miyafuken@cc.miyazaki-u.ac.jp

○　本時の目標

将来の夢がより相手に伝わるように、なぜその職業に就きたいかといった理由やこれから頑張りたいこと等、将来の夢への自分の思いや考えを話すことができる。

○　指導過程

学習活動及び学習内容（★は評価にかかわるもの）	「自律的に学ぶ」ための手立て
1　前時のふりかえりで出た課題から、本時のゴールイメージをもつ。 ○　前時のふりかえりで出た課題 ○　本時のめあて 自分の将来の夢がもっと相手に伝わるように、なりたい理由や夢への思いを工夫して伝え合おう。	○　前時のふりかえりで出た課題を共有し、単元ゴールや My Goal 達成に向けて何が必要かを問うことで、将来の夢に対する「理由や思い」の表現に着目し、めあてにつなげることができるようにする。
2　スモールトークやペアトーク等で、スピーチに生かせそうな表現を出し合う。 ○　スモールトーク スモールトークの例 Let’s travel back! (教師が過去に戻った設定で夢を語る) What subject do you like? I like music, P.E., English, … I like many subjects. So I want to be a elementary school teacher. I want to teach many subjects. Teaching is fun! I like children. I want to make children smile. ○　将来の夢に対する理由や思いを伝える表現 I like~. / I want to~. / I can~. / I am good at~. It’s ~. / My hero is~/ My favorite○○is~.　等	○　将来の夢に対する「理由や思い」について、伝える順番を工夫したスモールトークを教師が行うことで、「理由や思い」についての表現に着目することができるようにする。 ○　スモールトークで聞き取れた表現や他に考えられそうな表現を問うことで、「理由や思い」の内容や表現の幅を広げ、自分や仲間のスピーチに生かすことができるようにする。
3　将来の夢が相手により伝わるように、内容や表現を工夫して伝え合う。 ○　個人で表現づくり（スピーチメモ） スピーチメモの例 ・職業…看護師 ・ナイチンゲール ・英語 ・助けたい  ○　グループ内での発表	○　掲示物や学習支援アプリで、既習の語句や表現のカードを準備することで、伝えたいことと言語材料を結び付け、活用する語句や表現を選択・決定し、言語活動に臨むことができるようにする。 ○　表現に悩んでいる場合は、絵カードのなかから、自分の思いに近い表現や伝えられそうな表現はどれかを問うことで、伝えたいことと言語材料を結び付けて表現を選択し、話すことができるようにする。
4　自分や仲間のスピーチをふりかえり、再度スピーチを考え、伝え合う（★）。 ○　自分や仲間のスピーチのふりかえり ○　スピーチの見直しと改善 ○　再スピーチ ○　代表の発表の視聴 スピーチの例 I want to be a flight attendant. Do you like traveling? I like traveling. I am good at speaking English. I want to go to many countries. I want to study English hard. （問いかけの表現を入れてみようかな。） （得意なことを入れてみよう。） （○○さんのように最後に頑張りたいことも伝えてみよう。）	○　以下の視点を共有し、グループで互いのスピーチをふりかえる時間を設定することで、互いの表現のよさを認め合ったり、助言し合ったりし、自分や仲間の表現を改善することができるようにする。 ふりかえりの視点 ・内容や表現の工夫はあるか。 ・相手に伝わる表現か。 ・コミュニケーションのポイントを意識できたか。 （伝わる声、アイコンタクト、表情、ジェスチャー） ○　仲間と互いの表現をふりかえり、再度スピーチを考え、伝え合う場を設定することで、スピーチの内容や表現、伝え方を工夫して話すことができるようにする。
5　本時の学習をふりかえる。 ○　学習をふりかえる視点 ・　できたことや工夫したこと ・　仲間のよかったところ ・　課題や今後の目標	○　左記の視点を与え、学習のふりかえりを仲間と共有する場を設けることで、自分や仲間の表現の高まりを実感したり、次回のめあてへとつなげたりすることができるようにする。

○　本時の評価規準

将来の夢がより相手に伝わるように、伝える内容や表現を工夫し、なぜその職業に就きたいかといった理由やこれから頑張りたいこと等の自分の思いや考えを話している。　（思考・判断・表現）【発言分析・記述分析】